

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	三上 佳澄		
入学年度	平成 24 年度	学籍番号	12GG602
領域	健康支援科学	分野	健康増進科学
審査委員	主査	野戸 結花	
	副査	工藤 せい子	
	副査	細川 洋一郎	
	副査	西沢 義子	

論文題目：アセスメントにおける看護者の思考過程に関する研究

審査結果要旨：

看護者が患者に適切なケアを実施するために日常的に実施しているアセスメントに着目し、これまで看護学領域で研究されて来なかったアセスメントを行う際の思考過程に焦点をあてた研究である。本研究ではアセスメントを情報処理のプロセスと考え、入力された情報を患者情報、アセスメントした結果である看護問題と強みを出力された結果として捉え、看護者の思考過程を明らかにしていくという新たな視点からの研究である。

A 県内 2 施設の外科病棟に勤務する看護者 20 名を対象とし、質問紙法とインタビュー調査により研究を行っている。これらの結果を質的に分析しているが、研究者の主観による偏りを是正するためにテキストマイニングの手法も用いている。また、思考のプロセスを明らかにするために専門家の助言を得て厳密な条件設定をした周手術期のペーパーペーシェントを用いている。

その結果、看護問題として肺合併症や創痛などの術後合併症に関する問題を多くあげていること、強みとして家族の面会や付添いがあることを根拠とした家族支援が最も多かった。また、全体を通して看護問題が強みよりも多いという特徴があった。看護者は複数の患者情報を基にさまざまな解釈を関連付けて看護問題・強みを明確にしているという思考過程が明らかとなった。看護問題・強みの捉え方には看護者の経験年数、認知スタイル、最終学歴により異なる可能性があることから、看護の質を向上させるためには継続教育においてこれらの結果を活用することが望まれる。看護者のアセスメントにおける思考過程に関する新知見が得られ、博士論文に値する論文である。

最終試験 平成 27年 2月 2日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。